

平成 29 年度 静岡県立大学 COC 地域志向研究
「人と人とのつながりは社会活動への参加に
どのような影響を与えるか？」
研究成果冊子「地域で社会活動をするための
8つのレシピー牧之原の市民から学んだこと」お披露目
トーク&交流会 (平成 30 年 6 月 28 日)

報告書

- 
- レシピ1 声をかけられたら参加してみよう!
 - レシピ2 一緒に活動したいと思う人と始めよう!
 - レシピ3 世代や考え方、立場を超えて、つながろう!
 - レシピ4 「“まち”を良くしたい」という思いが第一歩。
 - レシピ5 自分の思いを大切にしよう!
 - レシピ6 楽しんで活動しよう!
 - レシピ7 まずは、できる範囲から始めよう!
 - レシピ8 次世代を大切にしよう!

発行：静岡県立大学COC事業 「ふじのくに」みらい共育センター・牧之原みらい交流サテライト

「コモンズをもって“まち”のつくり手になろう！」

津富 宏(静岡県立大学・国際関係学部教授)

「地域で社会活動を始めするための8つのレシピ」は、純粋な牧之原産です。牧之原で活動してきた多くの方々に集まっていたき、そして、そこでお名前の挙がった牧之原の社会活動のキーパーソン6名の方々の「生の」言葉を濃縮してつくりました。

つまり、この「8つのレシピ」は、牧之原の社会活動をなさってきた皆さんが積み上げてきた地域の知恵の一番おいしいところをまとめた「レシピ集」なんです。

地域の知恵は、みんなのものです。みんなのものとは、ちょっと難しく言うとコモンズと言います。今日は、このレシピ集をもっともっとみんなに共有してもらえるよう、つまり、もっともっと、牧之原のコモンズとして生かしてもらえるよう、この場を設けました。

地域の知恵は、一人だけでつくり上げてきたものではありません。自分たちの住んでいるところをちょっとでもよくしたいという気持ちを持った人たちが一緒に考え話し合い、一緒に行動しながら「経験知」として高めてきたものです。これからも、経験知というコモンズがこの牧之原に積みあがっていくことを願っています。

私たちには「まちをつくる権利」があります。みんなで話し合いながら、まちのつくり手になりましょう。



写真：登壇者4人(右から)

横山奈緒美さん(榛南おやこ劇場、前・運営実行委員長)

渡辺美穂子さん(アカウミガメ保護団体、カメハメハ王国NGO・女王)

水嶋みゆきさん(まきのはらし図書館友の会、会長)

片瀬 紀子さん(みらい子育てネット牧之原、事務局)

6月28日(木)夜に開催した「トーク&交流会」@静波コミュニティ防災センター・大会議室には、55名もの市民・学生が参加しました。会場は、熱気に加え、勝間田の加藤園さんの呈茶や、みらい子育てネット牧之原の託児サービスの支援も得て、小さい子をもつ親も参加し、温かい雰囲気にあふれました。

参加者は、県大COC事業にこれまでよく参加してきた方や、教育・文化に関心のある方だけでなく、FACE BOOKでまめに呼びかけたこともあり、サーフィンや食で地域活性を図ろうとする若い男性や、若手茶農家の参加もありました。

第一部「トーク」と第二部「交流会」の様子を簡単ながら報告します。

この日のゴールは、「8つのレシピの思いを知り、これからの活動にわくわくする」でした。

第一部「トーク」

4人の登壇者に、司会のMさん(地域団体「静岡2.0」)が問いを投げかける形で進行しました。1つめの問いは、「どんな思いで活動を続けて来ていますか?(活動の原動力は?)」であり、登壇者が4人とも女性であったこともあり、子どもを地域で育てることの意義とご自分の社会活動をつなげてきたことが良く伝わってきました。2つめの問いは、「社会活動における人と人とのつながりについて思うことをお聞かせください。」で、例えば、この地域に約20年前に嫁に来て、その時はひとりぼっちで、つながりを作っていくのが社会参加であり、また、発信すれば助けてくれる人が現れる、というのが印象的な発言でした。そういう意味では、性別を超えた友情とか、つながろうと思いつづければ、つながる、思わないとつながれないので、思いつづけたと、などと強い思いに支えられていることがわかりました。

第二部「交流会」

民協働ファシリテーターのSさんの進行で、8つのレシピとそれ以外のテーマ、つまり、興味のある9つのテーマ(=テーブル)に分かれて話し合い、最後は、自分にとって社会活動をするうえで大事なコツである「マイ・レシピ」を考えて、終わりました。

テーブルでの話はずきることがなく、有機茶畑を手放す必要に迫られた女性茶農家が有機栽培茶農家の若者に出会ったり、商工会の役員が自分の子育てについて考えたり、地域活動に頑張る男性陣がもっと市にリーダーシップをとって欲しいと言ったりと、議論は白熱し、時間で切るのが惜しいほどでした。

総じて、このような出会いと交流の場はもっとあった方が良さね、という結果になりましたが、例えば、せっかくの機会なのに、今回のように夜の開催では、子どもをもつ母親は参加しにくいので、参加できる仕組みをつくるのが大事とか、津富先生などは、誰かがつながないと、自然に生きるカメさんと人間はつながれない、とコメントしたり、その場を去るのが誰もが惜しいと感じたりするような、活発な場となりました。

ここに集まった人が、ネットワークをつくり、今後の牧之原の市民活動や社会活動の温度をあげていくのは間違いないと確信しました。

「マイ・レシピ」については、報告書の中ほどにまとめてあるので、ぜひ、ご参照ください。

東 宏乃(静岡県立大学「ふじのくに」みらい共育センター・地域連携コーディネーター)



写真a 第一部の全景



写真 b 第二部の全景



第2部の交流会では、自分が気になる、8つのレシピの内の1つについて同じテーブルで話し合い、最後には、各自が自分のレシピを思い描いて終わりました。その各自が考えた社会活動で大事にしたいコツとなるレシピ「マイ・レシピ」を紹介します。

<“まち”を良くしたいという思い>

- 「牧之原市を良くしたい」という思いを持ちつづける。
- 新しい考えを取り入れる事が町を明るくする。
- 自分のためでなく、興味あることでやる。
- 自分の活動の中に、他の人が必要としている事があれば、形をつくり提供する。

<参加してみよう>

- 声をかけられたら参加してみよう。一緒に参加したい人に声をかけてみよう。
- 誘われたら参加する→たくさんの人と繋がる。
- まず参加、そこからつながり自然とできてくる。
- 自分の世界をひろげる
- 自分の興味を広げていくと、自然に体が動いていく!!
- いろいろな人に出会って、話を聞いてみる!興味をもってみる(ハートの印)

<つながろう>

- つながらないとあきらめるのではなく、つながろうとつよくおもうこと。
- 誰かとつながるために外に出る。誰かと話すことで新しいつながりをつくる。
ずっと楽しく活動すること→大切な仲間と一緒に。
- つながるには、発信とCatch
- 心を開き、人とつながる。
- 世代や考え方、立場を超えてつながろう!
- つながるきっかけづくり
- 思いのつながりが、活動のつながりへ
- ステキな人 おもしろい人と出会える
-



<楽しみ>

- 感謝の気持ち、みんなの喜ぶ顔、笑顔がみられたら。
みんなで一緒に楽しみ、楽しむ時間を共有できること
幸せ
- やっぱり楽しんでやる事が一番大切じゃないかと思
います。
それと原点の思いを大切にしていくこと。
家族のため、お世話になった人への恩返しなど、原点を
大切に、思いおこして。
- 楽しくおもしろくやろうよ みんなおいでよ。

<笑い>

- 笑い声ファースト!!
(楽しいということが外側に伝えられれば、いろいろうまく
いく)
- 笑顔でいられたら、すてきな笑顔の人と出会える(出
会えた)!
- 笑ってすごそう、笑いは人をつなぐ

<次世代>

- 次世代を生きていく子どもたちのお手伝いを出来たら
いいなと思う。思いのつながり。
- これからを担う世代を支えるしくみが必要<思いのつ
ながりを>

<いろいろな思い>

- 声をかけて友達を増やそう!
- 思いを共有する時間こそ、楽しく活動する一歩。
- 地域の人の思いを共感しよう!
- テーマについて思うこと、言葉、家の人に伝える!
楽しい楽しいと言うと(主人は)やっかみ、
“今日行く(教育)、今日用(教養)”
- 自分はどう思うか、大切にしたい相手の気持ちを想像
する。
ひらく 思いのつながり
- ちょっと立ち寄れるところがたくさんあるまち
- 最初の一歩は大切です。自分から出ましょう。
- 走りながら考える!
- 臆病なままの自分 でも進む
- 牧之原大茶園大好き!何でもいいからやってみよう!
- 勇気
- 特色ある個性を生かそう
- 細々、こつこつ、少しずつ、続けていけたらいいな~。

感想集①

「第一部 心に沁みたトーク」

人のお話を聞いて自然に涙がにじんできるという経験は何年ぶりでしょう。軽妙な司会者の問いかけに答えながら繰り出される4人のお話はそのどれもが、長年の活動を元にした心に沁みるお話でした。トークの4人は全員女性でしたので、改めて男性とは違った女性ならではの視点を学ばせていただくことができました。

現在牧之原市内で展開されている社会活動のキーパーソンとして多くの皆さんに影響を与えてきた方々、私個人にとっても4人の方々は、現在行っている社会活動に誘ってくださったり、導いてくださった方々なので大変興味深く拝聴しました。

継続は力なり、という言葉が真実味を帯びて胸に落ちました。自分の経験から体得した思いを大切に活動していくこと、楽しくわくわくしながら共に活動していくこと、それが社会活動を継続していく力になるのではないかという思いを強くした第1部でした。

このような素晴らしいお話を聞く機会を作ってくくださったすべての方々に感謝いたします。ありがとうございました。

早川和幸 (Makinohara Culture つ・な・ぐ)

「実践している力強さ」

会が始まる前から、あいさつが飛び交い、交流が始まっていました。

どんな人が集まっているのかしら？

どんなお話が聞けるのかしら？とわくわく。

人柄がにじみ出る和やかな笑顔の4人が、前に並びました。私にとっても、出会った時からキラキラ輝く存在のパネラー。

順に語られる活動を始めたきっかけ、活動を続けてきた中で感じた人とのつながり等々。

そういえば今まで聞いたことなかったなあ。10年20年と積み上げられた活動を振り返りながら語る姿に、熱意や信念、そして一緒に活動を支えてきた多くの人たちのつながりに触れ、じわっと温かい気持ちが広がりました。一番強く感じたのは(人々が自主的に集まって行う市民活動＝)「社会活動」をまさに実践してきた真の力強さです。

2部では、それぞれが興味を持つ「8つのレシピ」に分かれてのトークタイムです。

<参加する><つながる><思う><共有する>から<活動>へ。これからどのように広がっていくのか。私自身の課題を念頭に置き、同じ方向性を持つメンバーとの会話は楽しく時間はどんどん過ぎてしまいました。

気軽につながりあえるコト、人が応援しあえるコト、レシピ通りにはできないかもしれないけれど、まず私にできるコトをやってみよう！

寺井ゆみ (社会教育委員、MCつなぐ)

「つながることで市民力があがる」

社会活動は無理があるとつながらないので、1人で100の力を出すより、100人が1の力を出し合うことが理想と思います。

また、多くの人とかかわると、一人相撲にならず、広い視野をもつ事ができます。

ただ、中心となる何人かの人に無理がかってしまうのは、避けられないことかもしれません。

でも、つながり、発信することで、困ったときに助けてくれる人が必ずいると思います。そして、信頼できる人、好きな人が増えていくと、生活しているこの場所が大切なものになってゆきます。

これも市民力のひとつと思っています

水嶋みゆき (まきのはらし図書館友の会・会長)

感想集②

「社会活動」と「つながり」は車の両輪

活動始めてを30余年になります。近年、年齢を重ねるたび「活動が大きく実っていないままの終わり」を感じていました。あきらめにも似た感情でした。「活動が大きく実る」というのは「市民に知れ渡る」ということです。知られた上で必要とされないのなら仕方がない事とあきらめもつきますが、そうではありませんでした。知られないまま終わりそうでした。

「人と人のつながり」「地域で社会活動」は私が活動と並行して目指すものでしたので、取材を受けたとき、この研究をやってくれることが嬉しくて、質問にたくさん答えて、同じように取材を受けた他のキーパーソン5名の方たちと合わせての研究結果がたいへん楽しみでした。

完成した冊子「8つのレシピ」は内容豊富に、しかし、最小の表現で書かれていて、冊子を通して、活躍している皆さんの想いを知る事ができました。

冊子は表紙も含め、どのページもどの字の大きさもすべて大切な言葉で表現されています。「社会活動」と「つながり」の言葉が何度も出てきますが、改めて考えたとき、この二つは大切な両輪で、イコールなんだと知りました。私にはまだまだ「つながり」が少なかったんですね。知られていないってことは…。

今はネットでつながっていてもそのつながりは表に見えません。「社会活動」は「見えるつながり」なんですね。人はさみしがり屋です。いろんな人が活動の場を通してつながりいけるように、たくさんの社会活動が冊子を読んで生まれて欲しいと思いました。

そして、冊子お披露目を兼ねた交流会へは既に社会活動をされている方も多数参加され、さらに牧之原市のこれからを担う若い方もいらっしゃり、この研究を通して新たな出会いも生まれ、交流が盛んな牧之原市になる予感がしました。予感に終わらないよう。現実化に向けて踏み出していきたい…。

県立大学の研究チームの皆さん、とても良い機会を作って下さりありがとうございました。

横山奈緒美(榛南おやこ劇場、前・運営委員長)

「地域で社会活動を始めるための8つのレシピ」に参加して

この企画に参加し、キーマンとなる方々の話をお聞きしていく中で、なるほどと共感する部分が多々ありました。

私自身、脱サラして自分で商売を始めてからボランティア活動に興味を持ち、青年会議所に所属し、地域の方々と一緒にまちづくり活動や人づくり活動をしていく中で、サラリーマン時代には感じたことのないやりがいや達成感を感じ、多くの仲間と同じ目標に向かい何かを成し遂げることが、とても楽しく感じていたことを思い出しました。

それ以来、子どもの学校のPTA活動や市民ファシリテーター、絆づくり事業等の市民活動を通して、多くのことを学ぶことで私自身の見識を高め、同時に多くの地域活動に携わっている人達との出会いが、人脈を広げてくれました。

私は現在、牧之原市議会議員という立場にありますが、振り返るとこれまでの社会活動が、私の「この地域をもっと良くしたい」「もっと魅力的で住みやすい街(市)にしたい」と思いを抱かせた、原点であったと改めて感じました。

今回この企画に参加し、あらゆる立場で地域社会活動をされている方のお話しをお聞きし、自分に興味のあるテーマごとに別れてのグループディスカッションは、とても有意義なものでした。

今回のテーマの「地域で社会活動を始めるための8つのレシピ」とは、私自身が社会活動をやると思った原点を気づかせてくれるものであり、それを言語化してくれたものであると感じました。

この気づきを、これからの市民活動と議員活動の双方に役立ていこうと思います。

牧之原市議会議員 濱崎 一輝

感想集③

「地域には 長く活動してきた先輩達と繋がれる場が必要」

牧之原にはこんなに色々な活動をしている人達がいるのか、と驚きました。また、長く活動を続けている先輩たちが、若者やよそ者と繋がりたいという気持ちを持ってくれていると知り、嬉しかったです。しかし、特にSNSを使用していない方々は、普段自分が地域活動をしていても、繋がるのが難しいです。今回のように活動と活動、団体と団体の間をつなぐ場は、これから必要になると思いました。

S(20歳代)

「地域の活動団体の現場」

先日、牧之原市内の市民活動団体が集まり情報交換などを行う企画に参加させていただき思うところがあった。色々な方がそれぞれの思いを持ち活動をされている、直に生活に関係する活動、得意とする分野などを地域に広める活動、弱者への手助けとなる活動、活動自体が趣味。

仕事に繋がる為のPR 活動。全ての活動が前向きで地域の活性化に繋がるものだと感じた。この時点で活動する市民と、しない市民に別れている。よほどのエネルギーが無ければ活動を起こし継続出来ないのだ。社会的に高齢化が進み、活動も高齢者寄りにシフトしていくと思われる。それは、余生の趣味という活動が増えるのは当然の事で、そこで感じるのは、一律横並びに市民活動と括ることが良いのかという疑問。しっかりと、地に根付き無理のない継続的な活動をするローカルタイプ、活動自体が発展する事でビジネスが生まれるようなムーブメントタイプは活動する方のポテンシャルも違い、求める物も全く違うのだから。

牧之原市に必要なのは、市内と言わずもっと広く活動団体や内容を熟知して、引き合わせる。国、県の補助職などの情報をスピーディーに拾い公開出来るような組織なのではと考えます。本来、行政の仕事の様に思えるのですが、そこに情熱が無ければ市民活動団体との温度差が生まれいつもの繰り返しなのです。

まちづくり会社がしっかりと行政の後押しを受け、成り立っていけるようになれば大きく前進するのではと思います。

今回、牧之原市がシティプロモーションを企業と提携したことで良い流れになり、活動の軸がぶれる事なく大きな流れに乗ることが出来れば面白いなと楽しみにしています。

Makinohara Beach Culture Association 名波 恵之

2018.6.28

知ろう!話そう!地域で社会活動を始めるための8つのレシピ トーク&交流会へ参加しました。

静岡県立大学「人と人の繋がりは社会活動にどのような影響を与えるか?」というテーマの研究から作られた8つのレシピのおひろめでした。

キーパーソンとして選ばれた方4名の発表のあと8つのテーマについてワークショップを行いました。

牧之原で社会活動をされているみなさんとワークショップつながりたいけど繋がれないという課題がキーパーソンからもワークショップからも出てきました。

繋げる役をするのは行政の仕事の一つだと思いますが、自分達が縦割りでは始まりません。

繋げる 要 になれる人が何人いるか、またその人達がどこまで繋がっているかでまちは変わってくるのではと思います。最後に全員で今日感じたことをことばにまとめました。

思いが繋がれば行動もつながる!

倉部光世(菊川市)



写真 d 会場のひとこま

感想集④



「地域で楽しく活動するための8つのレシピ」に参加して。

まずは参加のきっかけからお話します。

色々な人に繋げていただいたご縁からでした。

私は牧之原市国際交流協会の日本語ボランティアを始めてから10年が経ちます。

子育てが終わりこれからは自分のやりたいことをやろう!と決めました。

何をやろうか漠然と過ごしていたある日「国際交流協会だより」の日本語ボランティア募集の記事が偶然、目にとまりすぐに参加しました。

あれから10年。新しく入ってくるボランティアさんはなかなかいません。やっぱりこれからは若い人たちに引き継いで貰いたいし、協会の存続が難しくなる前に何とかしたいなぁと思っていました。

若い人に出会うにはどうしたら良いか。

焼津市で日本語ボランティアをしている方に愚痴のように話したら、「私、牧之原市で活躍している人を知っているから紹介してもらえばいいよ。」との返事でした。そうして紹介していただいた人が宮崎真菜さんです。その宮崎さんにお誘いいただいたのが「…8つのレシピ」でした。

牧之原市で頑張る、社会活動のキーパーソンの方々のお話が楽しみで、参加させていただきました。

お話を聞いて、そして交流会で思ったこと。

ここに参加された皆さんの想いは同じ。

誰かのために。そんな想いが地域を良くして行くんですね。

キーパーソンの方、交流会の皆さんからそんな想いが伝わってきました。

それぞれが思う活動をしながら、また他の人たちと繋がって連携し、助け合えば地域力は今よりもっと大きくなります。

私はたくさんの人たちと繋がりたいと思っています。知らない事や知らない人を知る喜びをいつまでも続けて行きたいと思います。

ところでつづきの第二部はいつですか？

まだ話し足りないので「…8つのレシピ」またよろしくお願いします。

(道下茂子・国際交流ボランティア)

最初の講演会では、貴重なお話を6人分も聞いたことがとても良かったです。地域のために長く活動をされている方達ばかりだったので、その経験を聞いて感動しました。

経験という貴重な情報を聞いたのは本当に良い機会でした。

次の交流会では、地域の色々な方と一緒にお話をしました。

いつもは同世代の人との交流が主なので、こうやって違う世代や性別を超えて交流できたのはとても刺激があって、純粋に楽しかったです。

自分のやっている活動の事も話させてもらえて、良い経験になりました。

そして、自分の活動だけではなく色々な方の活動のお話を聞いたのも素晴らしかったです。

自分が住んでいる地域でも、全然知らない活動が沢山あるんだなと痛感しました。

改めて、続けるということは大事なんだなとも思いました。

また機会があったら参加したいです。

とても楽しい刺激のある場でした。ありがとうございました。

川上ぱめら(『お母さん新聞』)